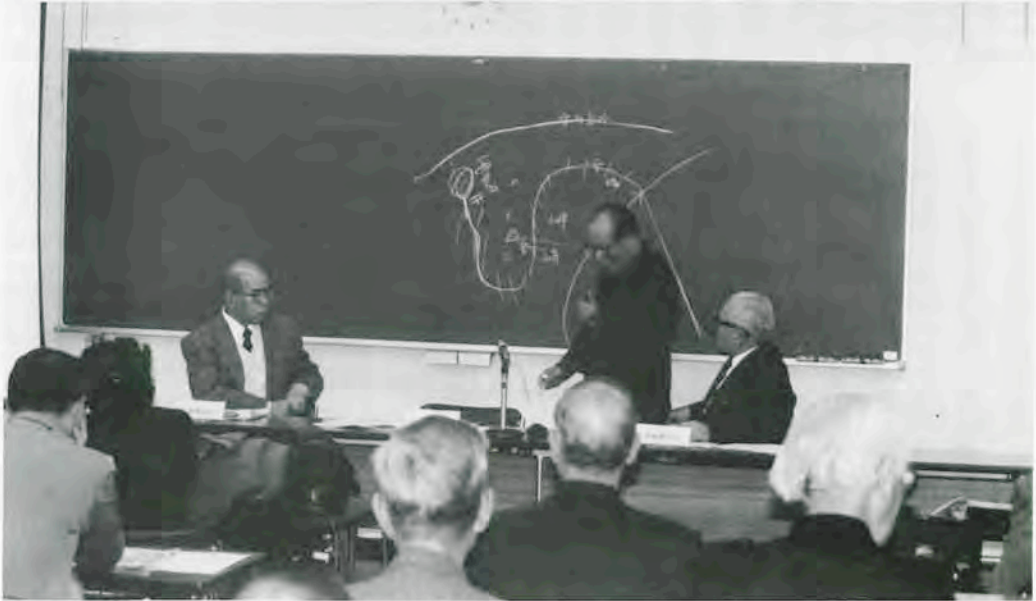


かたりべ 29

豊島区立郷土資料館だより



12月13日に開催された特別展記念公開座談会「豊島区を語る」のようす

区制施行六〇周年記念特別展を終えて

昨年、一〇月一日から区民センターで、一〇月一日からは郷土資料館で、区制施行六〇周年記念特別展「写真にみる豊島六〇年のあゆみ展」を開催いたしました。この特別展には、三千人をこえる多くの皆様にご来館いただき、一二月一三日に無事終了することができました。また、展示期間中に開催した三回の記念講演会・座談会では、いずれも、大変多くの方々にお集まりいただきました。

一月一四日の立教大学名誉教授の林英夫先生による講演会「豊島区今昔」は、軽妙な語り口で広い視野からのお話しがかがえました。

一二月六日の立教高校教諭の清水靖夫先生による「地図にみる豊島区の移り変わり」の講演会では、池袋を中心とした地域の移り変わりを地図を見ながらわかりやすく解説をしていただきました。

そして、特別展の最終日でもある一二月三日の座談会では、豊島区に古くからお住まいの方々に、それぞれの思い出や体験などのお話しをうかがいましたが、会場の方々からも、多くの質問や体験談が語られ、おいでいただいた方々にも、また郷土資料館にとっても、大変有意義なものになりました。

(伊藤)

特集 新館設立に向けてⅣ “収蔵庫探検隊が行く” 第2回

前号の『かたりべ28号』の取材において、新宿区立新宿歴史博物館の収蔵庫探検に無事成功

し、すっかり気を良くした我々探検隊（写真下）は、次の探検地として前回とは何の脈絡もなく、”寅さんのふるさと”葛飾区に向かうことにしました。



わげのわからないポーズを取らずに、今ウワサの(全くない)収蔵庫探検隊

心的に本音の部分でお話をして下さったのは、橋本直子学芸員（写真下）です。



葛飾に長年伝わる？「西の市のポーズ」をとってくれた橋本学芸員

新企画「収蔵庫探検隊が行く」の二回目は、

葛飾区郷土と天文の博物館（所在地：葛飾区白鳥三―二五―一 京成線お花茶屋駅下車徒歩八分）を取り上げました。昨年末の一月二十五日に訪れた我々をお忙しいにもかかわらず歓迎して下さり、中

郷土と天文の博物館収蔵庫訪問記

東京都葛飾区郷土と天文の博物館は、一九九一（平成三）年七月に開館した郷土展示室と天文展示室・プラネタリウムをあわせ持つユニークな地域博物館です。郷土展示室は、「かつしかと水」（総合展示）、「かつしかのあゆみ」（歴史展示）、「かつしかのくらし」（民俗展示）の三つのセクションに分けられ、それぞれのテーマに沿った展示で構成されています。また、年に数回企画展示が開催されるほか、歴史講座や体験教室も充実するなど、来館者の興味と関心度の深さ次第で誰でもが楽しめる博物館となっています。二三区の資料館・博物館の中では一番新しい施設であるため、今回取り上げる収蔵庫以外の場面（展示構成のあり方、複合施設の長所・短所など）においても参考になることが多いと思われます。

さて、我々探検隊は、興味津々の展示室やプラネタリウムを横目でチラッと見ながら、我々に課せられた使命である収蔵庫の取材へと気持ち

ちを切替えました。

同館には第一収蔵室・第二収蔵室・特別収蔵庫の三種の収蔵庫があり、収蔵資料の種類や性格によって使い分けがなされています。以下、前号と同じように当日の見学順序（第二↓第一↓特別）に従って、各収蔵庫の実態に迫ってみることにしましょう。

収蔵庫名	面積(単位㎡)	空調設備・設定温湿度
第二収蔵室 (地上1階)	129	空調設備なし
第一収蔵室 (地下1階)	184 積層部分含まず	空調設備なし
特別収蔵庫 (地下1階)	33	24時間空調 20℃前後 60%弱
合計	346 第一収蔵庫の積層部分は含まず	

第二収蔵室を拝見

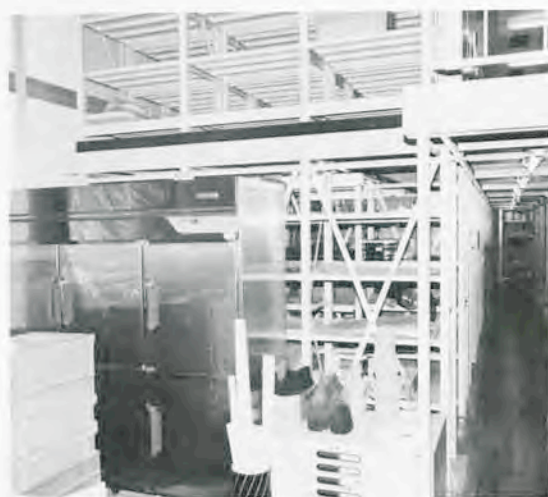
地上一階に設けられたこの収蔵室は、民俗資料の収納用となっております。荷解室のすぐ隣りに位置しているため、資料の搬入をスムーズに行うことができそうです。入口を入ると写真からもわかるように室内の大部分を移動ラックが占有しており、小型の民具類が整然と収納されています。なお、大型の民具類は区内小学校の空き教室を利用しているとのことでした。開館後あまり時間が経っていないため、収納状況にもかなり余裕があるように見受けられました。



第二収蔵室

第一収蔵室を拝見

室内床面にフローリングが施されているこの収蔵室は積層構造となっており、考古資料を中心に古文書以外の歴史資料（高札など）も収蔵されています。また、考古資料のうち木製の遺物を保存するため冷蔵庫が設置されている（写真参照）など、単に「収納」するのではなく、「保存」を意識した収蔵室となっております。第二収蔵室と同様、収納状況に余裕があるように見受けられましたが、実際にはかなりのビッチで考古資料が入っているらしく、満杯になるのも時間の問題ではないかということでした。



第一収蔵室（1階部分）

特別収蔵庫を拝見

庫内壁面・床面とも板張りとなっているこの収蔵庫には、古文書・掛軸・衣類などが納められています。衣類収納のための総桐箆筒は、特別注文で装備したものです。葛飾区内は、何度もの水害や急激な都市化現象によって、各家に遺されていたはずの諸家文書の多くが散逸しており、庫内はかなりの余裕がありました。むしろ、このような空調を完備した立派な収納庫があること自体が重要であり、資料保存に対する館の姿勢を区民にアピールすることによって、今後次第に寄贈・寄託依頼が増えてくるのではないかというお話しでした。



特別収蔵庫

1 第一・第二収蔵室には、空調設備を装備していないので、夏は暑く冬は寒いという現象が生じている。特に、第一収蔵室内では、当初から職員が作業を行うことになっていたので、空調設備が必要だったのでないか。

2 第二収蔵室に設置した移動ラックは、既製の画一的なもので、収蔵資料（民具）の大きさに必ずしも対応していない。各収蔵資料の大きさ・特性に応じた収蔵庫を当初からつくるべきである。

3 特別収蔵庫の天井高が予想以上に高かったため、有効に庫内が使われていない現状である。壁面を利用しながらもっと効率的な収納方法を考えていくつもりである。

4 資料によっては、立てかけたり、壁面を利用して吊るした方が効率よく保存できる場合があるが、ここはすべてが棚収納方式となっている。収納方法に多様性があることをもって考慮すべきではなかったか。

5 考古資料を収蔵する場合は、搬入・搬出のためのリフトを設置した方がよいのではないか。

取材を終えて

「収蔵資料にとって居心地の良い保存環境とは？」これが、取材を終えた直後の率直な感想です。すなわち、私たちは、資料にとって最も自然な（負担のかからない）方法で資料を保存しているだろうか？ 平置きしなければならぬ資料を立てていないだろうか？ 限られた収蔵スペースに資料を「押し込む」ことだけしか考えていなかったのではなからうか？ ということです。既存の収蔵庫内へいかに効率良く収蔵していくかを考える前に、資料にとってどのような保存環境が望ましいのか検討していくことが先決であることを痛感しました。

当館の場合は、開館から現在に至るまでの収蔵資料内容がある程度明確になっているわけですから、そこから必要な面積や装備すべき用品を試算して、新館建設の際には役立てていきたいと思います。

さらに、博物館建設における収蔵庫構想の際のイニシアティブの問題に触れておきたいと思えます。葛飾区の場合は、学芸員が展示構成の立案にかかりきりになってしまい、収蔵庫の細部にまでなかなか手がまわらず、多くの部分を営繕課の職員に頼らざるを得なかったことを反省点として挙げられています。そのため、

予想よりも天井高が高かったり（前掲「学芸員からみた収蔵庫の問題点」の**3**）あるいはその逆の事態も起こったそうです。これを克服するためには、①学芸員自身が設計図面を読めるように努力すること、②設計図面だけではイメージ創りが困難な場合には、類似した規模の室をもつ他の施設に出かけていって具体像を把握すること、が大切になると思われます。

今回訪れた葛飾区郷土と天文の博物館は、建設用地の取得から開館までまる八年間の歳月を費しており、我々は当初かなり余裕をもって開館に至ったのではないかと感じていました。しかし、実際に実務を担当した職員にとっては、日程的な余裕は全くなかったということでした。このことは、今回取材させていただいた収蔵庫それぞれに問題点があり、必ずしも満足なものとはいえないという学芸員の「本音」に集約されていると思います。

今回の特集で、収蔵庫探検隊シリーズの半分が終わりしました。次回の『かたりべ』発刊までには少し時間がありますので、この間に綿密な作戦会議を開いて他館訪問記事を充実させていきたいと思えます。博物館の収蔵庫について知りたいことがありましたら、ぜひ『かたりべ』編集部までお寄せ下さい。

（秋山）

冬期特別展

女性の祈り — 婚姻・出産・育児の信仰と習俗 —

二月五日より三月二一日まで開催

郷土資料館では、来る二月五日から三月二一日までの会期で、一九九二年度冬期特別展「女性の祈り—婚姻・出産・育児の信仰と習俗—」を開催いたします。ここでは、開催に先立って今回の特別展の内容について簡単に紹介したいと思います。



絵巻物「武蔵国雑司谷八境」 早稲田大学図書館蔵 「満足」という題で「子もたりてあゆみに香あり藤の花」の一句があり、鬼子母神参詣の家族連れが描かれている。

元氣な子どもの誕生と子どもの健やかな成長を願う親の気持ちは、昔も今も変わりません。今日のような医療技術が発達する以前の時代においては、出産は流産や産婦の死といった危険を伴うものでした。また無事に子どもを出産しても、乳幼児期に流行病に罹ったり死亡するケースが多く、流れ灌頂や水子供養などの風習が行われたりしました。それだけに結婚した女性の子授け・安産・子育ての祈りはより切実なものであったと思われれます。

こうした婚姻・出産・育児など女性や子どもが密接にかかわる信仰や習俗は、現代の都市化による生活環境の変化や社会構造の変動によって、どのような変容をとってきたのでしょうか。

今回の特別展では、安産・子育ての神として知られ、今もなお信仰を集めている雑司が谷鬼子母神や、区内に現存する子育て地蔵などを取り上げるとともに、明治・大正・昭和期の区内外からの寄贈・借用資料をおして、庶民の婚姻・出産・育児の信仰と習俗について見ていきます。

I 雑司が谷鬼子母神

江戸時代初期に流行した鬼子母神信仰と雑司が谷地域の関係について見ていきます。

おもな展示資料

絵巻物「武蔵国雑司谷八境」、鬼子母神堂奉納絵馬「古銭の柘榴」「神功皇后と武内宿禰」、広重画「雑司谷之図」など



絵馬「古銭の柘榴」 法明寺蔵 表に「奉納 小網町大阪屋屋上」、裏に「文久三癸亥弥生 (=1863年3月) 納之」とある。

II 婚姻・出産・育児

区内外でかつてみられたこれらの習俗や祈りの姿を寄贈資料等をおして見ていきながら、これらのもつ意味やあり方が時代とともにどのように変化してきたのかを、現代との比較のなかで考えていきます。

おもな展示資料

縁結び・縁切絵馬、祝儀帳、結婚式・出産・病除け祈願・節供・七五三関係資料など



ひなまつり 安田一郎氏提供 1932(昭和7)年頃
最上段右の内裏びなは大正時代の長女の初節供の際、
母親の実家から贈られたもの。

III 地域に生きる子育ての祈り

区内に残る子育て地蔵七体と子安稲荷を取り上げ、地域住民の祈りの姿をとおして、都市化の中で失われてゆく地域社会の祈りについて考えます。

おもな展示資料

普美地藏堂の再現、奉納旗、写真パネルなど



池袋本町子育て地域(池袋本町2-38-8) 江戸後期の池袋村
絵図にも書かれている地蔵で、板橋に向かう道が二又に分
かれている所に南面して現在も祀られている。

◎特別展に伴う記念事業の実施について◎

記念講演会(1)

日時…二月二一日(日)午後二時～四時

演題…鬼子母神信仰にみる民衆の祈りと姿

講師…内野久美子氏(共立女子大学講師)

記念講演会(2)

日時…三月一三日(土)午後二時～四時

演題…子育てのフォークロア

講師…千葉徳爾氏(元明治大学教授)

*いずれも定員は六〇名、会場は勤労福祉会館
四階の第四・五会議室です。参加をご希望の
方は、郷土資料館までお電話にてお申し込み
下さい(申し込み先着順)。(石川)

郷土資料館なんでもQ&A

Q 第二次大戦後も豊島区の地名はいろいろ変わっているようですが?

A 行政上の地名に限って説明します。

一九五六(昭和三一)年と六〇年に池袋駅東側で区画整理に伴う町名・町境の変更があり、池袋東が新設されました。

次いで、住居表示制度の施行が取り組まれた、次のように五次にわたって実施されました(地区の名は現在の町名)。

☆第一次 一九六四(昭和三九)年 南長崎・長崎地区(長崎六丁目は六八年) ☆第二次 一九六六年 目白・西池袋地区 ☆第三次 一九六六年 雑司が谷・高田・南池袋・東池袋地区 ☆第四次 一九六八年 駒込地区 一九六九年 池袋本町・北大塚・南大塚地区 一九七〇年 巢鴨・上池袋・西巢鴨地区 ☆第五次 一九八九(平成元)年 千川・千早・高松・要町地区

こうした中で椎名町や堀之内、日出町の

名が消える一方、南北の大塚など新しい名称ができたのです。第二・三次の住居表示施行の際には地元で反対の声も出、訴訟など全国的な問題にもなりました(詳しくは『豊島区史』(通史編四参照)。こうした変化の跡をたどるのは大変むずかしくなっています。『豊島区史』地図編(下)巻末の表などを参考にして下さい。(青木)

連載 一点の資料から 《その4》

地蔵台座銘が語る中世の宮城氏

郷土資料館では一九八六（昭和六一）年以来、中世豊島氏とその一族の関係史料の収集と研究を行ってきた。ここでは、調査成果の一部として従来の研究で触れられて来なかった史料である地蔵菩薩座像銘を紹介しよう（『与野市史』文化財編に紹介がある）。

この地蔵菩薩座像は、埼玉県与野市大戸地蔵堂に安置されているものである。同堂は、一八七二（明治四）年に廃された大戸村円能寺の跡を伝え、『新編武蔵風土記稿』にも記載されている。現座像は、同じく伝えられ由来を記した木札によれば、「武蔵国足立郡与野領大戸村地蔵堂本尊延命地蔵菩薩御身体去文化十三春紛失依之同文化十四霜月新造者也代金壹両壹分二而出来 文化十四丁丑天願主岡田太七 セワ人村役人中」とあり、一八一七（文化一四）年に何らかの事情で紛失したため新しく造られたものであることがわかる。ところが、台座の裏には次のような注目すべき墨書が見られる（写真参照）。

奉修

志

夫婦之法名

性翁道活信士

〇 壹
〇 禪定尼也

周西
于時天正

宮城美作守平朝臣正重

敬白

現奉

これによれば、もともとの座像は天正年間（一五七三〜九二）に、宮城美作守正重が寄進したことが知られる。この宮城氏は豊島氏の一族といわれ戦国時代には、岩付城主太田氏の家臣として、政業―為業―泰業と三代にわたり活躍した。『寛政重修諸家譜』によれば泰業の子で幕臣となった人物に平右衛門正重がいたことがわかり、台座の正重と同一人物であろうと思われる。

しかし、座銘は年月日部分に欠損があり、正確な寄進年代を知ることが出来ない点は残念である。『家譜』で正重は、一六三四（寛永十一）年に五十歳で没しているの、寄進が天正二十年だとしても、正重の当時の年齢は弱冠八歳ということになり、美作守と受領名を名乗っていることと齟齬をきたすように思われる。このように検討の余地を残すが、系図史料以外で宮城氏の実名が、確認される史料としてのこの墨書

は重要な意味を持つのである。

また、注目すべきは「夫婦之法名」と記載される内の「性翁」である。この人物と正重との関係は明確ではないが（正重の父か）、宮城氏と縁の深い寺院として、足立区扇二丁目性翁寺がある。「性翁」の一致は偶然ではないのではなかろうか。これも重要な課題であり、性翁寺の調査と他の宮城氏関係史料との検討からさらに追求したいと考えている。

（則竹）



豊島区立郷土資料館からのご案内

★地域史講座（連続）フィールドワーク「区境をあるく」〈前編四回〉開催のお知らせ

「街に出る博物館」をモットーに、郷土資料館ではこれまで鎌倉街道や谷端川、千川上水などの景観変化をテーマにフィールドワークをおこない、地域住民とのネットワークづくりに取り組んでまいりました。

今回は「川」とも関係が深い「境」にスポットをあてて、フィールドワークを企画してみました。これまで参加したことのある方も、また今回が初めての方も奮ってご参加ください。

昨年区制施行六〇周年を迎えた豊島区は、北豊島郡の高田町・巣鴨町・西巣鴨町・長崎町の旧四町を合併して誕生しました。

豊島区は文京、新宿、練馬、中野、板橋、北の六区と接しています。区境は実態がないだけに、わたしたちはふだんあまり気にとめませんが、家の中に区境がおっているという不思議な所もあります。いったい区境はどのような形に決まったのでしょうか。今回の講座では、村境から区境までの変遷を地形図などからたどってみていくとともに、実際に区境を歩きながら、

その謎を探ってみたいと思います。小・中学生も歓迎します（ただし、全回参加が原則）。

①高田・雑司が谷編

三月七日（日） オリエンテーション

三月十四日（日） フィールドワーク

②駒込・巣鴨編

三月二十一日（日） オリエンテーション

三月二十八日（日） フィールドワーク

会場・オリエンテーションは勤労福祉会館第三会議室にて、フィールドワークは現地集合・現地解散（雨天決行）

時間・全回とも午後一時から四時まで

講師・清水靖夫氏（立教高校教諭）

費用・実費千円程度（テキスト代・保険料含む）

定員・二〇名（申込み多数の場合抽選）

申込み・往復はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、二月一五日までに「〒17

1 豊島区西池袋2の37の4 豊島区立郷土資料館」へ。結果ははがきで通知します。

*なお、後編（池袋・長崎地区）は五月に行う予定です。詳細は「広報としま」で随時お知らせします。

編集後記

ついこの間、新年を迎えたと思ったら早くもひと月が終わろうとしています。まもなく花のたよりが届く季節になります。

「かたりべ29号」をお届けします。昨年六月発刊の26号から紙面が八ページとなり、この一年間新たに「特集」や「連載」を設けるなどいくつか工夫を試みてみました。今年度分四号を発刊し終えて、読者の皆様の反応が気になる今日この頃です。

* * *

二月五日からの特別展開催のため、現在職員総出で展示準備に追われています。今回の特別展では、絵巻物「雑司谷八境」や鬼子母神堂内の絵馬など、ふだんなかなか観ることができない資料も展示する予定です。会期中にぜひご来館下さい。

かたりべ
No.29

1993年1月31日
発行

豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4
電話03-3980-2351